

呉市復興計画検討委員会 第5回会議摘録

1 日 時 令和元年9月17日(火) 14時～15時30分

2 場 所 呉市役所本庁舎 752～754会議室

3 概要・骨子

14:00

【市長挨拶】

委員の皆様には、ご出席を賜りまして本当にありがとうございます。

3月に第4回の委員会を開催し、復興計画の最終案をお示し、それを基に呉市復興計画を策定させていただきました。

思い返してみますと災害発生以来、国土交通省をはじめ国、広島県、そして全国のさまざまな方々から、復旧・復興に向けてお助けいただき、また、委員の皆様にもそれぞれの立場でお助けいただき、ありがとうございました。感謝申し上げます。

この復興計画に基づいて、現在、復旧・復興を進めているわけですが、まずは、被害を受けられた方々、被災者の方々の心に寄り添って、きめ細かくお助けをしていくということが一番大事だと思っております。呉市地域支え合いセンター、そして市の保健師が、それぞれ仮設住宅やみなし住宅、自宅にいらっしゃる被災者の方々を回って、きめ細かなご意見を伺いながら、お助けしているところでございます。

また、国や県でも砂防や河川でありますとか、さまざまなインフラの復旧・復興を進めていただいております。市においてもインフラについて一部出来上がったものもありますし、着手したものや計画中のものもございます。それぞれの復興計画に従いまして、一生懸命対応しているところでございます。

今後とも、復興計画にございます「災害に強い幸せで魅力的な都市を目指して」を実現していくために、皆様のお力添えを引き続きお願いしたいと存じます。市としても一生懸命この計画に沿って復旧・復興を進めてまいります。

今日は、3月に策定しました、呉市復興計画にも位置付けております、特に被害の大きかった天応・安浦についての地区計画の案をお示しして、皆さんのそれぞれのお考えを率直に聞かせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

14:05

【新たに就任された委員の自己紹介】

- ・国土交通省中国地方整備局建政部長 村上委員
- ・広島県地域政策局長 西野委員

14:07

【議題1】

「呉市復興計画（地区計画）（素案）について」に関する説明。

14:30

【その他】

今後の呉市の復興の推進に向けて、委員からの主な意見は次のとおり

- 私の地区でも崩れた崖が整備されるなど、この1年の間で目に見える形で工事が進んでいくことで、「本当に復興に向かっていているな」ということがわかった。

気になっていた天応中学校が小学校の場所で小中一貫として整備されるということだが、視察に行ったとき、ここの中学校の建物やグラウンドは、確かに土砂崩れもあったが、高潮被害のときは小学校よりもこちらのほうが安全ではないかと思った。

中学校の利活用が地区計画に書いてあるが、私の地区は、旧小学校がそのまま地区に残っていて、グラウンドと1階部分だけを整備して、有料で貸し出しをしている。広い場所は有効に活用できると思うので、ぜひ天応中学校も考えて活用してもらいたいと思う。
- 地域の方々のワークショップを経てつくられた実施計画なので、これに沿って具体的に事業を進めていただきたいと思う。

現地に行ったときに思ったことだが、12ページにある災害の記憶の継承や祈念の場、あるいは避難場所として公園を整備することは、とても重要なことだと思う。

こうした思いの前提としては、この地域がとても素晴らしいところだという地域に対する誇りがあると思うので、整備に当たっては、例えば、瀬戸内海の景色であるとか、何か地域の良さを感じられるような、誇りが持てるような工夫をしていただきたいと思う。
- 30ページに、「いなし広場の多目的利用の検討」とあるが、しっかり検討していただきたいと思う。避難に関する警戒レベルが3になったら高齢者等の避難といっても、皆さんは「どこに避難をしていいのかわからない」というのが現状で、避難しなくてもいいと思っている人が、近所にも多い状況である。「ここに行けば安心」というところをつくることはなかなか難しいことだが、「こういう場合はここに行く」ということを、地域の人に徹底していただければと思う。これは、災害で被害に遭ったところだけではなく、呉市全体としてそういう場所があって、みんながそこに行けば何とかかなると思えるように、徹底していただければと思う。
- 改めて今、復興計画の天応地区と安浦地区の地図を見たが、天応地区も2つの川が海に向かって合流しており、安浦地区も3本の川が合流している。

今回、ポンプの機能や稼働などについていろいろな問題が出たと思うが、これはポンプ等の問題ではなく、かなりの雨量になったことで中畑川の合流部で水を流せない状態となったことと、中畑川については、山の崩落によって大きな流木等が橋に詰まったことにより、河川の護岸の弱い部分が決壊を引き起こして氾濫したために、安浦駅の周辺が水没したと思っている。

そこで、復興計画でプランを立てられているが、中畑川、野呂川とも多くの橋が架かっていることから、より安全を考慮して災害復旧を考えていただきたいと思う。

また、安浦地区では、安浦市民センター、安浦小学校が避難所となっているが、小学校は水没したので、改めて安全な避難場所を検討することが必要ではないかと思う。
- 1つ目は、地区計画にも一部入っているが、地域をつなぐ道路の再点検をしておく必要があると感じた。特に、主要地方道矢野安浦線の沿線には、土砂災害特別警戒区

域が多数あり、雨が降ったときに通行止めになる可能性がある。地域の命綱となる矢野安浦線や呉環状線等の道路が、本当に危険な状態にあるのかという点検を着実にしておく必要があると感じた。

もう1つは、今回の災害の伝承やメカニズムについてである。

先週、ハリケーン「カトリーナ」の被害を受けたところを視察したが、かなりの方々が亡くなられているニューオーリンズでは、災害の跡地を公園に残していた。公園の中に、被害を受けた家屋を外はリフォームし、建物の中は被災した状態で残し、その建物の中を外から覗くと、被災した当時の状況が見えるような状態になっていた。

そのほか、災害の原因とそれに対する行政の対応をパネルにして設置していた。

今後も豪雨になる可能性があると思うので、どこか目に見える形で残しておく必要があるのではないかと感じた。それが被災地なのか、市役所の近くの公園なのか、その地域の方々が、気軽に訪れやすい場所としては、例えば小学校なのかもしれないが、被災当時の状況と現在の取組を説明してはどうかと思う。

- この復興計画案は、天応と安浦地区について、それぞれ実施項目を8項目に分けられており、非常にわかりやすくなっている。

4の地区内道路の整備、7の主要地方道呉環状線の整備として、2車線の道路を整備するような計画になっているが、道路沿いには私有地が相当あるため、用地買収の必要や、空き地に家が建ち始めていることもあって拡張が非常に難しいのではないかと心配している。地域の皆さんの協力がなければできないが、今も離合ができないので、そういった点をぜひ行政も重点的に地域の皆さんと共に話し合いを進めていただき、しっかりと計画に基づいて道路を拡張していただきたいと思う。

それから、商業施設が天応・安浦から撤退しているが、やはり商売ベースでは以前から採算が合わなかったという点があり、災害をきっかけに、それぞれが撤退してしまったことで、大変不便になっていると聞いている。非常に難しいと思うが、公的な支援をしてでも、そういったところに出店を促すということをお願いしたい。我々としても、協力をしたいと思うが、ぜひ、被災した住民が戻って、生活ができるよう重点的に取りあげていただきたいと思う。

- 自治会の会議等において、「復興計画に書いてあることが実際にできるのか」という話が出ている。この会議は、計画の案をつくるための会議ではないはずである。自治会連合会としては、やはり防災意識の向上が重要だと思っており、被害が小さかった地区の方の中には、災害の記憶が薄くなっている方もいるため、それではだめだという思いから、10月24日にみんなを集めて第1回目の防災フォーラムを開こうとしている。また、終了後にはアンケートを取って、行政に対して要望事項などをお願いしていきたいと思う。

- 1つ目として、ワークショップからの提案書を見たときに、公園や広場に関して、住民の皆さんがいろんな思いを出されていたが、地区全体をどうするかということについて地域の皆さんと話をされたと思う。その次の段階として、地域の皆さんの声できるだけ丁寧に聞きながら進めることによって、進捗の見える化にもつながると思うし、皆さんの思いが寄せられたものがまちの中に造られていくとよいと思うので、その辺りを期待したいと思っている。

2つ目として、今回は主にハードの話だったが、今年もあちこちで災害が起こっており、避難等のソフトの対策が必要だと思っている。それぞれの地区において「避難をどのようにしていくのか」という体制づくりが必要だと思う。

最後になるが、それぞれの場所における自然環境なり、災害発生のリスクを考え、土地利用や建物の建て方などを将来的に考えないといけないと思う。

- 7ページに砂防ダムの維持管理について、広島県に要望していくとあるが、これは非常に重要な点だと思う。砂防ダムは重要な社会基盤施設だが、状況をわかりやすく数値化できていないこともあって、現状がどうなっているのかが理解されていないと思う。

これまで同じ場所での土石流のような災害は、50年に1回くらいしか起きなかったもので、その経験がなかなか伝わらず、砂防ダムは忘れられてしまいがちになるが、近年は、豪雨の頻度が高まっているので、これからできる砂防ダムについても、実際に災害が起きなくても、「今回の雨で砂防ダムに、大体これくらいの土砂が溜まり、これは全体の容量の何パーセントに相当する」といった情報を、地域にどんどん提供することが重要であると思った。

それから、社会基盤施設は、「これくらいの施設をつくっておけば、大丈夫だろう」という過去の災害の統計的な性質に基づいてできているわけだが、現状では、肝心の雨の降り方や台風の強さが過去100年くらいの統計を上回るような力で頻繁に起こっている。そうすると災害に備えるという部分では、社会基盤施設がどれだけの能力を持っているのか、その役割についても、より深く市民の方にも理解していただくことが求められてくると思う。

例えば、野呂川ダムも建設以降、40年か50年経っていて、今回初めて異常洪水時防災操作をする事態に追い込まれたが、今後も川に流せる容量を超えた放流もせざるを得ない状況も起こり得るという状況であるので、より多くの市民に理解をしてもらったうえで、災害に備えてもらいたいと思う。

また、今後、海岸の方へ学校を移すことになるが、高潮や台風のとくに、堤防の高さやポンプ場の容量などを理解していただいて、それが限界を超えることも起こり得るということを頭に入れて備えていただきたいと思う。

社会基盤施設を整備していくことは必要だが、それらを利用する市民により有効な形で防災に活かしていただきたいと思う。

- 地区計画の素案は、各地区でのワークショップを重ね、地域の方々と一緒につくりあげており、これまで苦労されたことと思う。

広島県では、発災直後から呉市のこうした地区を重点的に支援しており、県の復旧・復興プランでも重点地区として位置付けて対応している。

砂防・治山緊急事業については、残念ながら労務者の不足や入札の不調などさまざまな理由で少し遅れている状況だが、今後は、これらを踏まえ、公共事業の担当部局では、用地取得の段階から工事、入札のそれぞれの段階に至るまで、さらに取組を強化して進めると聞いている。

計画の中でさまざまな県への要望が挙げられているが、まずはこれらについて、しっかりと関係部局と共に受け止めさせていただきたいと思う。また、全体計画や地区計画が着実に推進されることにより、それぞれの地域においてのまちづくりの意識が高まるとともに、市全体としても呉市が力強く、さらに魅力的な都市として復活・再

生するように、県としても全庁を挙げて連携していきたいと思う。

- 日々、安浦で生活していて、少しずつ復興が進んでいると感じるし、ワークショップの定期的な開催を通じて、地域住民の声を聞きながら市と市民が一緒になって前を向いて進んでいるなど感じている。ただ、少しずつ進んではいるが、現在も買い物に困っている方もたくさんいるし、自動車があっても困っているという状況なので、安浦の中心部の「ゆめマート跡地」に、早く何か商業施設が来てくれると助かる。

できるだけ早く、そこに商業施設等が出店してくれると、まちににぎわいが戻ってくると思うので、情報提供などの支援に力を入れていただきたいと思う。

また、21ページの野呂川ダムについて、豪雨のときに私も不安になることもあり、ダムの水位が今どれくらいになっているかが気になる。周りの方もダムが決壊したらと考えてしまうことがあるので、ダムの強度が現状はどうなのかということを知っておきたいと思う。

それから、新たな情報伝達手段の検討とあるが、リアルタイムで水位などがわかるようになるのだと思うが、実際は、災害時にインターネットが使えなくなったので、伝達方法については、やはり何パターンか考えてほしいと思う。

- 安浦や天応地区の方と、あまり被害のなかった地区の方では、意識の差が大きくなってきているのではないかと感じている。特に、小学生、中学生に対しては、「呉でこういうことが起こって、今、呉はこういう準備をしているのだ」ということをしっかりと伝えていただきたい。

また、安浦も天応もとても良いところなので、地域だけではなく、呉の人がたくさん遊びに行くことで、さらにその現場の状況などが、呉全体に伝わっていくと思うので、そういう情報発信も行っていたいただきたいと思う。

- 1点目は砂防事業についてだが、平成30年7月豪雨を受け、直轄砂防区域として新たに呉市の天応地区を含めた地区を選定して、緊急砂防事業を5箇年で進めており、これらについては、国としても一生懸命取り組んでまいりたい。

2点目として、ハード事業を進めているが、ハードを整備してもどうしても災害は起きてしまうものなので、ソフト対策が重要になってくると思う。今回の災害でも大洲市のように住民連携によって避難がうまくいった優良事例もあるので、呉市も今回の災害を教訓として、住民と一緒にソフト対策を充実してもらいたいと思う。

国の防災・安全交付金でもこうした住民等のまちづくり活動に対する支援をソフト対策のメニューとして用意しているので、避難路の整備、防災公園の整備に加えて活用を図っていただきたいと思う。

3点目は、市全体の話になるが、現在も仮設住宅入居者が200世帯近くいるなど、被災した住民への支援、各種支援策の活用促進、住宅の斡旋やマッチングなど、住まいの再建に向けてきめ細かな支援が必要だと思う。市全体の復興計画のフォローアップとして、ぜひ進捗等の定期的な把握と発信をお願いしたいと思う。

- 砂防ダム整備の進捗が非常に気になる。さまざまな事情があって計画どおりに進めるのは難しいようだが、特に安全につながる事なので頑張りたい。

それから、店舗のことについても、天応には店舗がないので、本当に深刻な感じがしている。商工関係者と市が頑張って、早めに誘致ができればと思う。

【濱里副市長】

- 全体計画から地区計画まで、ご協力をいただきありがとうございました。
この計画や全体計画に基づいて、復旧・復興を進めているところであり、復旧工事については、順次発注を進めているが、やはり不調・不落等の問題は、国、県と同様に、市においても発生している状況となっている。復旧工事の中でも特に条件が悪い事業については、国、県の動向も見据えながら歩調を合わせて、復興係数、復興歩掛等による発注促進策にも取り組んでいる。
この地区計画については、計画期間は7年を基本としているが、より長期的視点で取り組むべき課題については、令和7年度以降も継続して取り組むこととしている。
個々の内容については、いわゆるガントチャートでおおむね書いているように、令和6年以降に及ぶものもある。
復旧事業の場合は、行政がしっかり進めていくということではあるが、まちづくりに関わる部分になると、行政だけで進めるわけではなく、地域住民の意向等を踏まえて進めていくことになるので、地域の皆様と連携して全体として計画が進んでいくように取り組んでいきたいと思う。
引き続き、皆様には、ご助言、ご指導をいただきたい。

【小松副市長】

- 委員の皆様からいただいたご意見を基に復興計画、地区計画を策定することができ、感謝申し上げます。これらの計画はつくって終わりではないので、これからがスタートだと思っている。一日も早い復旧・復興に向けて、オール呉市で鋭意取り組んでいくので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【羽藤座長】

- 今回の呉市の復興計画の策定については、委員の皆さんが熱心に現地の見学会にも参加され、毎回、熱心な議論をしていただいたことが良い計画づくりにつながったのではないかと実感している。
呉市の人と話をしていると、普段の生活の中で、過去の災害の経験や被害の状況など、細かな記憶や会話の積み重ねとして残っているようだと感じた。これらの生活の中でのこうした会話や災害の記憶を、どうやって継承していくかというところが、これからの呉のまちづくりにおいて重要なことではないかと思う。
災害は忘れたころにやってくるので、近くの山々がいつ牙をむくかもしれないということも含めて、いかに記憶にとどめていくのかということ、これから7年間、自治会の皆様も含めて、どれだけみんなのものにしていけるかということが大事だと思うので、ぜひ学校教育や、地元の大学にも協力していただいて、地域ぐるみで記憶の継承ということを心掛けていただきたいと思う。
本当に皆さん、ありがとうございました。

【市長発言】

- 皆様、昨年10月から今日まで、さまざまな形でお助けをいただき、本当にありがとうございました。羽藤座長のお話を聞きながら、災害は不幸でしたが、皆さんに恵まれて、こういう会ができたということは大変幸せであったと思います。それぞれの立場でご意見をいただき、私もなるほどと思いながら聞かせていただきましたし、関係する各部局から職員も出席しているので、皆がそれぞれに重く受け止めさせていただ

きました。

皆さんがおっしゃるとおりこれを実際どういうふうを実現していくか、ハードもソフトも含めて、具体的に実現するその過程で、また地域の皆さんの意見も聞かせていただいて、実際に実行していくということでございます。

皆さんのご意見とそれに対する羽藤座長のコメントも併せて非常に大事なことと受け止め、検討して、実際に行うときに活かしていくようにさせていただきたいと思えます。

今、羽藤座長から言われましたように、安浦・天応の商業の問題も含めて、国、県、広島大学、呉高専、教育委員会、商工会議所をはじめ経済界の皆さんと一緒に進めさせていただければ大変ありがたいと思えます。

本当に心から皆さんに感謝を申し上げまして、これからこの計画をさらに実効あるものにしていくということとし、今日の会議のお礼の言葉とさせていただきたいと思えます。計画をつくるという意味ではこれで一区切りでございますので、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

以 上

15:30
会議終了